

平成27年度 全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

平成27年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。この調査結果及び、本校としての取り組みについてご説明します。

今回の調査により測定できることは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。今後も、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

1. 今年度の調査結果の概要

(1) 質問紙から見られた主な調査結果

- ・自己肯定感が高く、学級みんなでやり遂げることに喜びを感じたり、努力を続けたりできる児童が多い。
- ・国語・算数ともに学習の重要性を高く認識している。
- ・理科は、授業の内容がよくわかると感じている児童が多い。

(2) 教科学習状況調査結果

- ・国語：「話すこと・聞くこと」においては、全国平均を上回っている。
「言語についての知識・理解・技能」で、全国平均を大きく下回っている。
- ・算数：基礎的な知識は、全国平均を上回っている。
基礎的な知識の活用では、全国平均を下回っている。
- ・理科：「観察・実験の技能」及び「自然事象についての知識・理解」では、全国平均を上回っている。
「科学的な思考・表現」は、全国平均と同程度であった。

*数値は平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
本校	66.3	63.2	73.7	41.2	61.1
神奈川県	67.9	64.3	74.0	44.8	60.4
国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8

*Aは主として基礎的な知識に関する調査 Bは主として知識の活用や思考に関する調査

(3) 各教科・観点ごとの傾向

○：よい状況と考えられる内容 ▲：指導・改善が必要と考えられる内容

<国語> []内の記号は、国語A・Bの区別と設問番号

話すこと・聞くこと

○話の内容に対する聞き方を工夫する〔A3〕

書くこと

○具体的な事例を挙げて説明する文章を書く〔A4〕

▲目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける〔B1〕

読むこと

○新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える〔A5〕

▲目的に応じ、中心となる語や文を捉える〔B2-ア〕

言語事項

○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む〔A1〕

▲文の中における主語を捉える〔A2〕

<算数> []内の記号は、算数A・Bの区別と設問番号

数と計算

○整数、小数の四則計算をすること〔A1〕

○示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述すること

〔B1(2)〕

- ▲割合が1より小さい場合でも、比較量が(基準量)×(割合)で求められること〔A ②(2)〕
- ▲示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述すること〔B ③(3)〕

量と測定

- 示された直方体の体積を求めること〔A ⑤(2)〕
- ▲示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めること〔B ②(1)〕

図形

- 円周の長さを、直径の長さを用いて求めること〔A ⑤(2)〕
- ▲示された条件を基に、平面に4つの長方形を敷き詰めること〔B ⑤(1)〕

数量関係

- 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述すること〔B ⑤(3)〕
- ▲繰り返し出現する事象から規則性を読み取ること〔B ④(1)〕

2. これまでの取り組み及び、成果と課題

○授業を通して、基礎・基本の確実な習得を図るような指導法や授業改善に向けての研究を重ねてきた。

- 〈算数〉・新しい課題に取り組む際に、既習事項の確認をする。
 - ・課題把握→自己解決→共同解決→まとめ→習熟 の学習の流れを確立する。
- 〈国語〉・見通しをもって学習に臨めるよう、単元計画をしっかりと立てる。
 - ・音読、新出漢字の習得の時間を設ける。

多教科で考えたこと、分かったことを言語化し、互いに説明し合う活動を取り入れてきた。

○読書の励行や*問題解決的な学習の展開により、情報を活用しながら考える力を身につけさせていく。

*様々な問いに対して、既習事項や調べたことを活用し、思考しながら解決していく学習

○基礎・基本の習得や発展的な学習の取り組みに活かせる内容のものを精選し、興味をもって家庭学習に臨めるようにする。

⇒●多くの設問で、国の平均を上回ることができた。また、説明を記述する問題では、無回答者がほとんど無く、粘り強く問題に取り組む様子が見られる。これは、学習習慣がしっかりと身に付いている児童が多いことや問題解決的な学習に意欲的に取り組み、意見を出し合うことを楽しめている児童が多いことが成果に結びついたと考えられる。

▲正答率に関しては、個人差が非常に大きい。特に、「A：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題」で顕著見られる。より多くの児童が基礎的・基本的な知識・技能を身につけられるような支援が必要である。

3. 今後の取り組み

【国語】○文を書くときのきまりが定着し、豊富な語彙や接続語を活用して文を書けるできるようにする。

- ・並行読書を習慣づけ、語彙力を増やす
- ・文字数の制限や内容の条件をつけた作文指導を日常化し、書く経験を増やす。
- ・辞書を積極的に活用したり、互いに文章を推敲し合ったりする活動をより多く取り入れる。

【算数】○筋道を立てた考え方とその表現力をのばす。

- ・数直線や図を用いて考え方や立式の理由を説明する活動を重視する。

【各教科を通して】

○ペアやグループでの話し合いの時間を多くし、自分の考えや意見を話す場面を増やす。

○児童の発言に対して、その意をくみ取りながら、よりよい表現のしかたを助言したり、子どもたちどうしで表現のしかたを高め合う活動を取り入れたりする。

○必要に応じてフィードバックしながら学習内容を整理し、基礎基本の徹底をはかるとともに、発展的な学習に取り組む場を用意し、意欲的に学習に取り組めるようにする。